

支部報告

新潟支部報告

第八九回日本医史学会総会開催準備

- 一 中原泉日本歯科大新潟歯学部長を名誉会長に推挙、会長蒲原宏、副会長本間邦則、準備委員藤井正宣、会田恵、金野克、星栄一、泉田亮助により、事務局を日本歯科大学新潟歯学部内に置く。

- 二 数次会合により五月二十八、二十九日に日本歯科大学講堂にて開催決定。

- 三 『新潟医歯薬史蹟散歩』の編集、発刊を企画、昭和六十三年五月出版予定。新潟・西村書店。

- 四 学術集会は学会準備のためなし。

- 五 支部会員の増加募集を行う。

- 六 フランス人お雇い医師ビダールの顕彰碑をフランスの生地マゼールに建立予定につき準備開始。

- 七 新潟大学医学部七五年史編纂参画。

(蒲原 宏)

広島支部報告

研究発表前に、次のような事務報告がなされた。

昭和六十二年九月十六日に逝去された佐藤美實先生に対して、

当支部・富士川游頭影会・広島県医師会から江川義雄が代表して上京し、十九日の葬儀に参列し弔辞を捧げた。その報告は広島県医師会速報第一二六六号に掲載された。

例年、発表会の前に、広大医学部資料館運営委員会開催が通例となっていて、本年は二月十四日資料館で開催された。年間見学者七九〇名であり寄贈物品は松坂・長野両氏より二件であった。

研究発表会（広島支部長 西本幸男）

- 一 郷土医療史の中の東北の医人

江川 義雄

- 二 『回生録』より

末田 尚

- 三 幕末維新のオランダ医学の受容

石田 純郎

- 四 四川の文物を見て

小川 新

一先生は先約の為欠席された。

役員改選で支部長は西本氏の後任として原田康夫氏が選出された。

(江川 義雄)

第二七回 医学史研究会 合同総会
日本医学史学会関西支部(昭和六十二年秋季)

とき 第一日 昭和六十二年十一月七日(土) 午後一時三〇分

第二日 昭和六十二年十一月八日(日) 午前九時三〇分

ところ 第一日 阪大医学部構内、中之島図書分館五階

第二日 阪大医学部二階会議室

会場費 五〇〇円

プログラム

第一日

一 要望課題 戦後の医学・医療(一九六〇年以降)

1 総論……………中川 米造(阪大・医)

2 戦後日本の労働衛生史

序説……………水野 洋(大阪府職業病
センター)

3 日本医療労働運動における

一九六〇年以降の
要求論の深化……………日野 秀逸(国立公衆
衛生院)

4 戦後沖繩の医療(二)

一九六〇年以降……………照屋 寛善(沖繩市・
オリブ山病院)

5 社会福祉分野からみた

戦後の医療……………沖津 邦弘(帝塚山病院)

6 一養護教諭の歩み……………三原 和子(守口東高校)

二 医学史研究会総会

三 医学史研究会懇親会(第六講座)

第二日

一 一般演題

1 医と法の支配……………栗本 宗治(西宮市)

2 大阪(大学)病院薬局の
医学教育への協力・医学部の
医学教育への協力……………中室 嘉祐
(元大阪帝大医学部
門部、現奈良保健
学院大)

3 汲泉社と同人達……………寺畑 喜朔(金沢医大)

4 ヒボクラテスに於ける
医師像……………松田 方一(奈良良
市病院)

5 百舌鳥三陵と齒……………杉本 茂春(大阪
市)

6 古代日本における医療と仏教
—僧医・看病僧を
中心に—……………山本 徳子(横浜市大)

7 曲直瀬道三生誕四八〇年祭に
出席して……………杉立 義一(京都市)

8 『種痘辨』の著者
谷景命について……………浅井 允晶(堺女
短期大学)

9 橋本宗吉の
「天の火をとる松」……………藤野 恒三郎(箕面
市)

10 結膜異物・角膜異物除去術の歴史
(民間療法を含めて)……………奥沢 康正(京都市)

11 シーボルト次男の日本人妻

- 細原ハナ(予報)……………宗田 一(京都市)
- 12 明治三年大坂医学校記念写真(大坂本町橋西詰中邨雅朝写) ……岩治 勇一(大野市)
- 13 大阪慈恵病院
医学校について……………中山 沃(岡山大学)
- 14 陸軍の軍医養成と
初期の陸軍軍医……………佐久間温巳(西尾市民病院)
- 15 講座制の歴史とその功罪
—薬学(有機化学)の研究を
中心として……………安江 政一(瀬戸市大)
- 16 アムステルダム アテネア
J.W. Gunning 教授と三人の弟子
B.W. Dwarz, P.C. Plugge 及び
J.F. Eijkman……………石田 純郎(三菱水島病院)
- 17 J・グラントとJ・P・ジュースミルヒの
比較研究 三……………飯淵 康雄(琉球大・医)
- 二 日本医史学会関西支部総会
- (一) 両会ともに会員であるかたはむろん、いずれか一方の会員であるかたも、いずれにもご出席いただいて結構です。懇親会も会員でないかたも含めてふるってご参加下さい。
- (二) 年次会費未払いのかたは当日お支払いいただければ幸いです。ただし、医史学会の受付は二日目のみですのでご了承

下さい。

(三) 配布資料は四〇部前後準備して下さい。

連絡先

医学史研究会 一三三〇 大阪市中区中之島四―三―五七

大阪大学医学部中川研究室内

〇六一四四三―五五三二(代)

日本医史学会関西支部 一六九 堺市新金岡三―一―二―三〇八

長門谷洋治内

〇七二二―五一一七二六一

(長門谷洋治)

研究会

宮崎県医史懇話会

昭和五十三年三月二十五日当地で開催されました第七九回日本医史学会総会、学術集会を記念して設けられたのが本会であります。

会則、事業などご紹介いたしますしゅう。

- 一 本会は宮崎県医史懇話会と称し、事務所を宮崎市和知川原一丁目一〇一番地宮崎県医師会館内（電話〇九八五―二二―五一―一八）におく。

二 本会は宮崎県の医史を調査研究し、その知識の普及を図り、医学史の発展に寄与することを目的とする。

三 本会は春秋二回の研究発表、調査および視察旅行などの事業を行う。

現在は春の総会で予、決算審議と研究発表を行い、秋は十二月第一日曜に県内の医史跡を訪ねています。すでに七回、毎回三〇人ばかりの参加があります。

四 本会の会員は宮崎県の医史に関心をもつ個人または機関とする。

会員八〇余人を擁し、この中に宮崎医科大学教授も四人ほど、また、部外では韓国人一人が加わり、次第に量、質共に充実しつつあると思っております。

五 本会に次の役員をおく。会長一人、副会長一人、幹事若干

名、監事一人。顧問をおくことが出来る。

現在会長は田代逸郎、副会長小池初雄、顧問に本県郷土史連絡協議会会長野口逸三郎他をみる。

六、七があります。省略いたします。

会費は、医師会会員が年額二、〇〇〇円、部外からの会員は、一、〇〇〇円負担しております。

史跡探訪が好評で一度顔を出した人は病みつきになったり、こんな地道な素晴らしい活動を知らなかったことが恥かしいとか。皆様のご指導を賜わり、いつまでも続けていきたいと考えております。

（田代 逸郎）